



特別展
空也上人
と
六波羅蜜寺

Special Exhibition
The Saint Kūya
and
Rokuharamitsuji
Temple

PRESS RELEASE

開催趣旨

「市聖」「阿弥陀聖」として知られる空也上人は、平安時代、南無阿弥陀仏と唱えて極楽往生を願う阿弥陀信仰をいち早く広めた僧侶であり、2022年は空也上人没後1050年に当たります。

空也上人が十一面観音立像を本尊として京都東山の地に創建した六波羅蜜寺(創建時は西光寺と称した)には、現存最古となる上人の像が伝えられています。念仏を唱え歩いた姿を目の当たりにするような写実的な像は、仏師運慶の息子である康勝がつくりました。同寺は運慶一門にゆかりの深い寺でもあり、運慶作の地藏菩薩坐像などが残されています。

このたびの展覧会には、東京では半世紀ぶりの公開となる空也上人立像をはじめ、六波羅蜜寺の創建時につくられた四天王立像、定朝作と伝えられる地藏菩薩立像など、平安から鎌倉時代の彫刻の名品が一堂に集います。

心の安寧を祈り、生涯をささげた空也上人の姿と、六波羅蜜寺の歴史と美術を通して、疫病や困苦に立ち向かい懸命に生きた当時の人々の信仰の厚みにも、思いを馳せる機会になりましたら幸いです。

ごあいさつ

ひとたびも 南無阿弥陀仏という人の 蓮のうえに のぼらぬはなし

開山空也上人のお言葉です。

上人は平安時代中期に京の都に蔓延した伝染病を鎮めるためにわが身をなげうち民衆に尽くされた方です。悪病退散の後、上人は人々に仏様の御教えを伝えるため念仏をおひろめになりました。

当時、簡単には民衆に受け入れられなかったと思われる念仏を「ひとたびも」のお言葉をのぼりに掲げ、自ら念仏を唱えながら町を歩かれ「一度でもお念仏を唱えれば安楽を得ることが出来ます。さあ、お念仏をお唱えして仏様の御教えを学びましょう。」というメッセージを民衆に伝え布教されました。

2022年は上人没後1050年に当たり、開山空也上人御遠忌の記念事業として東京での展覧会の開催を発願いたしました。空也上人立像や平清盛公坐像など、平安・鎌倉彫刻の宝庫といわれる六波羅蜜寺の諸尊像に加え、十王図など絵画や文書なども出陳いたします。中でも教科書でもなじみ深い空也上人立像は、半世紀ぶりの東京への出陳となります。

この貴重な機会に、それぞれの造形美や写実性の素晴らしさとともに、空也上人はじめ諸尊像の御心をお感じいただければと思います。

六波羅蜜寺山主

川崎純性



本展の見どころ①

重要文化財 空也上人立像 東京で半世紀ぶりに公開

平安京に疫病が流行した際、念仏をひろめた空也上人。日本史の教科書でおなじみの重要文化財 空也上人立像は、運慶の四男である康勝が上人の姿を写實的に表した像で、仏師の代表作とされます。この像が制作されたのは鎌倉時代で、上人がこの世を去ってから200年以上が経過していましたが、つねに市井の人々と共にあった上人への畏敬の念と、口から6体の阿弥陀仏が現れたという伝承を表したものです。六波羅蜜寺では正面からの拝観ですが、本展覧会では鎌倉肖像彫刻の傑作を存分に鑑賞することができます。



本展の見どころ②

平安・鎌倉彫刻の宝庫 六波羅蜜寺の名品が一堂に

京都・東山に位置する六波羅蜜寺の周囲は、古くは、鳥辺野^{とりべの}という葬送の地であり、また信仰の場でもありました。六波羅蜜寺は幾度か兵火にあいましたが、創建時から伝わる重要文化財 四天王立像をはじめ、平安から鎌倉期の名品が伝来しています。一堂の下につどう数々の作品を通じて、大きく歴史が動いた平安から鎌倉の仏像の移り変わりもご堪能いただけます。

空也上人と六波羅蜜寺

の創建

空也上人

六波羅蜜寺の創建は、今からおよそ1000年前の平安時代半ばにさかのぼります。天曆5年(951)、京都に流行り病が蔓延したため、空也上人は、疫病がおさまる世の中が穏やかになるように祈り、十一面観音菩薩立像を造像し、西光寺を創建しました。これが現在の六波羅蜜寺にあたります。本章では、市井の人々から絶大な信仰を得た空也上人の足跡をたどりながら、六波羅蜜寺創建時の像をご覧いただき、人々に親しまれてきた六波羅蜜寺の歴史をたどります。

平安時代中期の僧侶。南無阿弥陀仏と唱えて極楽往生を願う阿弥陀信仰をいちはやく広めた。山林で修行をしながら各地を遍歴し、橋梁や道路等の整備や、行倒れた人を弔うなど社会事業を行い、庶民から有力者まで幅広い信仰を集めた。10世紀半ばには、京都東山の地に十一面観音像を本尊とした六波羅蜜寺の前身となる西光寺を開き、天禄3年(972)、70歳にてその生涯を閉じた。



重要文化財
空也上人立像
鎌倉時代・13世紀

康勝作



重要文化財
四天王立像のうち持国天立像

平安時代・10世紀

空也上人は、西光寺の本尊十一面観音菩薩立像(六波羅蜜寺の秘仏本尊として現存)を造立した際、同時に梵天・帝釈天、及び四天王像を造像したと伝えられる。現在、宝物館に安置される四天王像がこれに相当する(増長天のみ鎌倉時代の補作)。像高180センチメートル弱の堂々たる大きさをほこり、一木造りならではの重量感をもつが、彫り口は浅くなっており、平安時代前期から後期への作風の変化が見て取れる。



鎌倉時代を代表する仏師運慶の四男である康勝の作。首から鉦を吊るし、たたきながら左手に鹿角杖を持ち歩く遊行僧の姿である。頬がこけた瘦身の体つきはリアルで、念仏を勧めて市中を巡り歩いた上人の姿を彷彿とさせる。開いた口から木造の小さな阿弥陀立像が六体現れ出るさまは、空也上人が「南無阿弥陀仏」の名号を唱えると、その声阿弥陀如来の姿に変じたとする伝承を立体化したものとして有名である。



重要文化財
薬師如来坐像

平安時代・10世紀

空也上人の弟子である天台僧中信が10世紀後期に造像したと伝えられる。中信が西光寺から六波羅蜜寺に改名し、本像を本尊とした。円弧を描くような伏目がちの目や頭部(肉髻)の隆起がなだらかであることなど、天台宗で流行していた薬師如来像の特徴がみとめられる。次代に仏師定朝が完成させる寄木造りの技法の現存最古のもので、時代の過渡期に位置付けられる像である。

六波羅とゆかりの人々

生前の行いを
裁く裁判官

六波羅蜜寺は、京都の葬送の地の一つ鳥辺野の入口にあり、「あの世」と「この世」の境界に位置する寺として、

人々の篤い信仰を集めてきました。

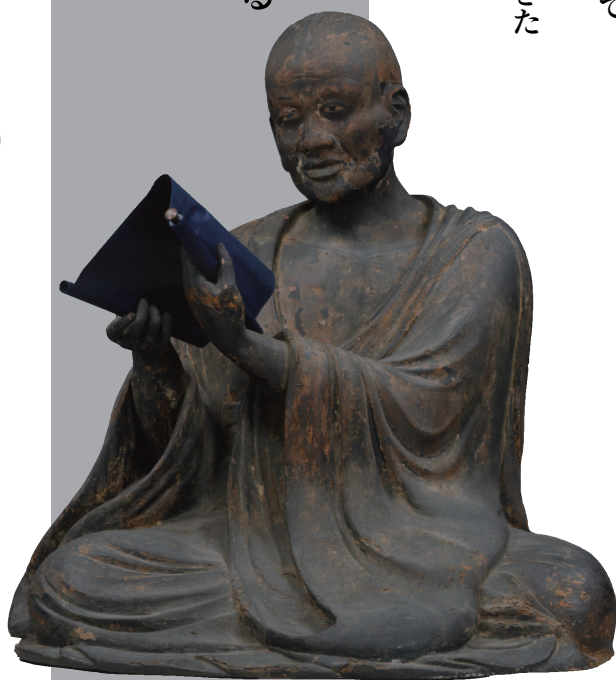
本章では、兵火をまぬかれながら伝えられてきた

ゆかりの品々を通して、

六波羅のもつ独特の立地が生み出した

信仰の蓄積をご紹介します。

平清盛と
伝えられる
僧形像



重要文化財
僧形坐像(伝平清盛像)
鎌倉時代・13世紀

六波羅の地には12世紀後半に平氏の邸宅が建ち並んでいた。平氏滅亡からそれほど時を隔てない時期の像。



重要文化財 閻魔王坐像
鎌倉時代・13世紀

死者の生前の行ないを裁いて次に生まれ変わる世界を決める十王の一人。十王の彫像を揃える例は少なく、閻魔王に代表させることが多い。丸首の襟が正面で見えないのは顎鬚を垂らすため(衣の上に墨描)と考えられる。

華やかな彩色が優美な
平安彫刻

重要文化財 地蔵菩薩立像
平安時代・11世紀

仏教説話集の「今昔物語集」に収録される、地獄に落ちた源国挙が地蔵菩薩の助けにより蘇生したことから、大仏師定朝に地蔵菩薩像をつくらせ六波羅蜜寺に安置した像に該当すると考えられる。



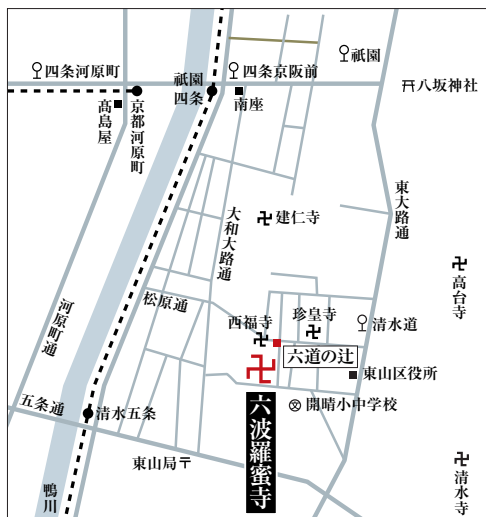
六道の辻

六波羅の地は平安京の外で、すぐ東の鳥辺野は葬送の地だった。死と隣り合わせた土地であるため、冥界への入口と考えられ、六波羅蜜寺の近くには「六道の辻」と呼ばれる一画がある。死者は、冥界で閻魔王など十王の裁判を受けて次に生まれ変わる世界、すなわち六道(天・人・修羅・畜生・餓鬼・地獄)への転生が決まる。空也上人は念仏を称えて阿弥陀如来にすがれば極楽に往生できると説いた。もし六道に生まれ変わって苦界に墮ちても、地蔵菩薩に救ってもらえると信じられた。

六波羅蜜寺

西国三十三所第17番札所。本尊は秘仏の国宝十一面観音立像で、12年に一度、辰の年に開扉される。正月三日の皇服茶の授与や8月のお盆に行われる「萬燈会」など伝統行事が受け継がれる。開山空也上人にちなんで、12月13日〜31日の毎日夕暮れ時に行われる「空也踊躍念仏」は、重要無形民俗文化財に指定されている。2022年5月末には新宝物館「令和館」が開館する。

六波羅蜜寺
京都市東山区五条通
大和道路上ル東
<https://www.rokuhara.or.jp/>



空也踊躍念仏
胸に下げた鉦鼓をたたいて、節をつけて念仏を唱えながら大壇の周囲を練り歩く。



六波羅蜜寺

いずれも写真 浅沼光晴

運慶一族と六波羅蜜寺

六波羅蜜寺には運慶作の地藏菩薩坐像、運慶の四男康勝作の空也上人像のほか、運慶一門の運覚が造った地藏菩薩立像(現在、静岡・岩水寺所蔵)もあったことが知られる。六波羅蜜寺は、有力者の庇護を受けて当代一流の仏師に造像を依頼することができたのだろう。運慶と湛慶のもと伝える肖像彫刻は、運慶が建立した地藏十輪院に置かれていた。江戸時代には六波羅蜜寺の境内に十輪院があったという(『山州名跡志』)。

堂々とした体躯、写実的な着衣の表現、きわめて優れた出来栄から、運慶が1180年代に造ったと推定される鎌倉彫刻の代表的作例。X線CTの調査により像内に数多くの納入品があることが判明した。

重要文化財 伝運慶坐像
鎌倉時代・13世紀



重要文化財
地藏菩薩坐像 運慶作
鎌倉時代・12世紀



